

増田前知事が発起人「100人委員会」発足

ILC実現へ別枠予算

確保目指し検討着手

塩谷議連幹事長が明言



【東京＝児玉直人】北上山地が有力候補地となっている素粒子実験施設・国際リニアコライダー(ILC)の誘致に關連し、超党派国会議員で組織するILC議連幹事長の塩谷立氏(自民党、衆院静岡8区)は29日、ILC建設にかかる予算を従来の科学研究予算とは別枠で確保できるよう検討に入

ることを明らかにした。同日、東京都港区の国際文化会館で開かれた「ILC100人委員会」発足記念式典のあいさつで述べた。その上で塩谷氏は、7月に安倍晋三首相が訪米予定であることから「マクロン大統領との会談でILCを話題にするよう働き掛けたい」との考えを語った。【9面に關連】

ILCの別枠予算確保に向けた検討に着手することを明らかにした塩谷立ILC議連幹事長。東京都港区、国際文化会館

宇宙誕生の謎を探るなど、素粒子物理学の世界唯一の研究施設として計画されているILC。実現すれば、日本初の本格的な国際研究機関となり、科学的意義のみならず経済波及効果も人財育成などの観点から、北上山地やその周辺の自治体では誘致実現を求める声がある。研究者側は、ヨーロッパの次期素粒

子物理学計画にILCを反映させる必要があるとして、今年中の日本政府の意思表示が不可欠としている。一方で、建設や運営には巨額な費用が必要となり、国や自治体の財政に与える影響や他分野への研究活動に支障が出るのではとの懸念から慎重論も根強い。100人委員会は、

前岩手県知事の増田寛世氏が発起人となり発足。財界や文化系の有識者、著名人も名を連ねており、ILC議連なども連携しながら国民への理解普及を進め、政府判断を後押しする。

式典で増田氏は「日本にとって一度も経験したことがない壮大なプロジェクト。立ち上がる確は高く厚いが、国民的議論を高め支持してもらえないような環境をつくっていきたい」と意気込みを示した。

来賓としてあいさつした塩谷氏は、「実現への一番のネックは予算。他分野の研究者からは自分たちの予算が削られるとの懸念があることから、国家プロジェクトとして別枠予算が確保できないか、来週にも協議の場を立ち上げたい。今年中には何らかの形で日本政府

府の前向きなメッセージを示せるようにしたい」と述べた。同日は東北ILC準備室長で岩手県立大学の鈴木厚人室長が、ILC計画の概要や現状について講演した。

100人委員会の賛同者は、今月26日時点で129人。委員会事務局は「個人の立場で参加しているとして、各委員の肩書や所属などは明らかにしていない。